



新橋小学校

学校だより

令和5年5月31日

令和5年度 第3号

鳥の目、虫の目、魚の目

児童支援専任 菊崎 健

『子どもたちのもつ可能性を最大限に引き出すために…』

私たち教職員だけでなく、子どもたちに関わる全ての大人が抱える永遠のテーマの1つだと思います。そんな難解なテーマを解決に導く小さなヒントを、学校教育から少し視点を変えて考えてみたいと思います。

デンマークはその国土が日本の約 1/9 (北海道の半分程度)、人口は日本の約 1/20 (兵庫県民とほぼ同じ)の北欧の小さな国です。しかし、サッカーにおいては FIFA ランキング 19 位(日本は 20 位 : 2023.4.6 現在)で、これまでに数多くの名プレイヤーを輩出している、言わばサッカー先進国です。そんなデンマークのサッカー協会には、指導者に向けた『子どもたちの可能性を最大限に引き出すため』の「少年指導 10 カ条」があるそうです。

デンマークサッカー協会 少年指導 10 カ条

- 1 子どもたちはあなたのモノではない。
- 2 子どもたちはサッカーに夢中だ。
- 3 子どもたちはあなたとともにサッカー人生を歩んでいる。
- 4 子どもたちから求められることはあってもあなたから求めてはいけない。
- 5 あなたの欲望を子どもたちを介して満たしてはならない。
- 6 アドバイスはしてもあなたの考えを押し付けてはいけない。
- 7 子どもたちの体を守ること。しかし子どもたちの魂まで踏み込んではいけない。
- 8 コーチは子どもの心になること。しかし子どもたちに大人のサッカーをさせてはいけない。
- 9 コーチが子どもたちのサッカー人生をサポートすることは大切だ。しかし、自分で考えさせることが必要だ。
- 10 コーチは子どもを教え導くことはできる。しかし、勝つことが大切か否かを決めるのは子どもたち自身だ。

あくまでサッカー指導者にむけた 10 カ条ですが、そこには『子どもたちの可能性を最大限に引き出すため』に学校教育や日々の子どもたちとの関わりの中で生かしていけるようなたくさんのヒントが散りばめられてはいないでしょうか。

子どもたちが新しい世界で精一杯に羽ばたく力を身につけるためには、まずは大人である私たちが、凝り固まった価値観に縛られることなく新しい視点を持ち、そこから見えるものについてじっくり考えることも大切だと気付かせてくれるような気がします。